

平成16年度 国際共同研究推進部会活動報告

次世代高度ネットワーク推進会議
国際共同研究推進部会 部会長
池田 佳和

1. 国際共同研究推進部会体制

国内外の研究について、研究者間での意見交換等を通じた活動方策の検討を行うことを目的として、国際共同研究推進部会を設置し、年2～3回開催「JGN・日米回線に関する国際共同研究グループ会合」として発足し、平成16年8月よりJGN・日米回線が運用を開始したことを受け、次世代高度ネットワーク推進会議の下、「国際共同研究推進部会」に改組
部会長を中心にネットワークの運営方策、国際共同研究の可能性、利用促進等について、専門的・技術的立場から検討

部会長	池田 佳和	東京工業大学大学院 理工学研究科 特任教授
メンバー（五十音順）	秋山 豊和	大阪大学 サイバーメディアセンター 助手
	江崎 浩	東京大学大学院 情報理工学系研究科 助教授
	甲藤 二郎	早稲田大学 理工学部コンピュータ・ネットワーク工学科 教授
	河口 信夫	名古屋大学 情報連携基盤センター 助教授
	品川 裕之	名古屋大学 太陽地球環境研究所総合解析部門 助教授
	澁谷 智治	独立行政法人NRI教育開発センター 助教授
	鶴 正人	九州工業大学 情報工学部電子情報工学科 助教授
	松浦 幹太	東京大学大学院 情報学環 助教授
	森川 博之	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 助教授
	山岡 克式	東京工業大学 学術国際情報センター 助教授
	山口 和彦	電気通信大学 電気通信学部情報通信工学科 助教授

2. JGN の主な活動状況

平成16年2月: JGN ・日米回線開設の検討を開始

平成16年7月: 「JGN ・日米回線に関する国際共同研究グループ会合」の設置、開催
・JGN ・日米回線の運用方針などの検討を実施

平成16年8月: JGN 日米回線開通記念式典を実施
・六本木ヒルズにて、来場者数300名余を集め盛大に開催

平成16年12月: 「国際共同研究グループ会合」を「国際共同研究推進部会」へ改組

平成17年1月、池田部会長を団長に現地調査団を米国・シカゴへ派遣し、米国側機関と相互接続について調整を実施



会議の様



日米回線開通記念式典のテープカット



米国シカゴへ現地調査団を派遣

3 . JGN ・日米回線の利用概況

利用組織(3月17日現在)

産業技術総合研究所 (AIST)
 Asia Pacific Advanced Network
 (APAN)
 資源・環境観測解析センター (ERSDAC)
 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
 大阪大学
 東京大学 など

(アルファベット順)

主なトピック

平成16年11月米国ピッツバーグで開催されたSuper Computing 2004では4つのグループの日米間超高速実験をサポート

- **バンド幅チャレンジでは、そのうち3つのグループが賞を受賞**

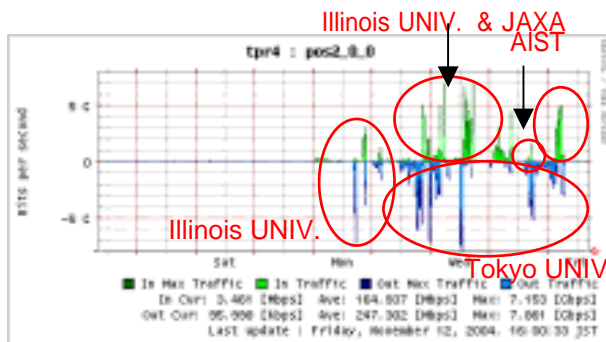
平成16年12月-1月 東京大学 Data Reservoir チームの長距離高速データ転送実験にネットワーク提供

- **本実験がインターネット速度最高記録に認定**

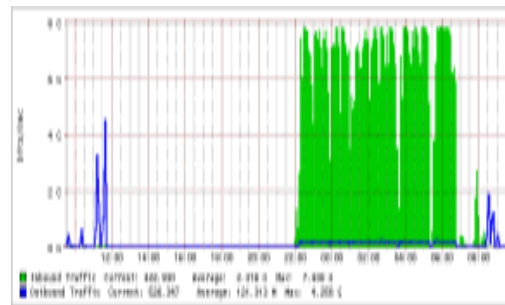
平成17年1月 JGN シンポジウムで様々なデモをサポート

- ワシントン大学 - 会場間 HDTV 転送
- マサチューセッツ工科大学 Haystack - 会場間 eVLBI データ転送

平成17年2月 資源・環境観測解析センター(ERSDAC)が JGN 回線を利用して、NASAとの共同研究を開始



SC2004開催中のJGN 日米回線のトラヒック



東京大学 Data Reservoir チーム
 インターネット速度最高記録達成時のトラヒック

4. 今後の活動方針

1) 国際共同研究の促進

実績のある研究者への働きかけ

研究テーマを決めた上での研究促進

海外の共同研究相手とのコネクション作りのための方策の検討

2) 回線環境の整備

JGN ・日米回線と海外の相互接続先ネットワークとの間で、双方にとって有益かつ円滑なオペレーションを実施にする必要な事項の検討

・接続ポリシー、セキュリティポリシーの調整

基本的にはオープンテストベッドとしての立場を保持しつつ、クオリティーの高いサービスを提供するための柔軟なポリシーの検討

・オペレーションの協調

新たに整備予定の国際回線(タイ・シンガポール)構築のための各種調整